

★漢方あれこれ★

◆金元医学◆

漢方医学が飛躍的に発展をとげた時代

太田 順康

宋を滅ぼした女真族が建国した金(1115~1234)とその金を滅ぼして中国を征服したモンゴル族の元(1271~1368)の時代の中国医学を云います。

それまでは、漢の時代に確立した医学理論「黄帝内経」と後漢の時代に編纂された「傷寒論」による薬物療法が主流であった。即ち風寒と言う外邪による熱性病の治療が中心であった。

宋(960~1279)の時代になって、五運(木、火、土、金、水)と六氣(風、寒、暑、湿、燥、火)を重視する運氣学説が医学にも取りいられるようになり、病気の原因に内因(臟腑の弱り)外因(六氣の外邪)があると云う学説が確立してきました。

金元の時代になるとこの運氣学説を各医家が研究し、独自の理論を発展させて主張するようになりました。

それまでは医学理論(内経素問)と臨床の治療(傷寒論)とは独立して存在していたきらいがありましたが、この時代になると理論と臨床が一体化し独自の主張を持った多くの医師が学派を形成するようになりました。その中でも「金元の四学派」とか「金元四大家」と言われる学派が有名です。



金元の時代に医学思想が発展したのは、宋代に印刷技術が発達して医学書が数多く出版されるようになったこと、それに皇帝が医学書の編纂出版に熱心だったこともあるようです。

異民族の金元の政権は中華の思想にあこがれがあったのか、中国に侵入して、中華の文物を持ち帰り、中国の文化・制度を踏襲しています。

日本の明治維新後の西洋文化の急激な取りこみに似た所があります。

ちなみに四学派は劉素の寒涼派、張從正の攻下派、李東垣の溫補派、朱丹溪養陰派のことです。彼らが唱えた学説や創設した薬方は今でも良く使われているものが多数あります。

No.4 1 補中益気湯、No.6 1 防風通聖散などがその代表処方です。

四学派の詳しいことは後日記述させていただきます。 ↗

お知らせ

春禪洞

すこやか教室 山歩き

曜日と時間：毎週金曜日 10:30~

参加：無料

お茶など飲み物を持参

<9月の予定>

暑い夏も終わり涼しくなってきましたが、不安定なお天気が続いています。局地的な大雨などで山道も荒れています。気をつけて歩きましょう。

4日(金) 11日(金) 18日(金) 25日(金)

☆雨のときは、中止します。

§ 漢方相談日

(担当 太田順康：日本漢方交流会認定漢方終身師範。
岐阜県漢方研究会会長、岐阜薬科大学「漢方学」講師)
今月の漢方相談日は、下記のとおりです。

10日(木) 14日(月) 28日(月)

§ 9月の休診日

21日(月・敬老の日)

§ 健康診査予定

お手元の受診券をご持参の上、お越しく下さい。

◎特定健康診査：6月1日~10月31日

<対象者>

- ・岐阜市国民健康保険加入者
- ・1940(昭和15)年11月1日

~1976(昭和51)年3月31日生まれの方

- ・自己負担金：800円

◎ぎふ・すこやか健康診査：

9月1日~11月30日

<対象者>

- ・後期高齢者医療制度に加入の岐阜市民の方
- ・自己負担金：500円

この4人の他にも成無已、張元素、などよく知られた医家の名前が伝承されています。

また現在まで伝わっている医書の多くはこの時代に編纂復刻されたものが多く。「宋版〇〇」と言われる書物が沢山あります。

(つづく)